

\*\*\*\*\*

第 140 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXL Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

\*\*\*\*\*

日時:2020 年 12 月 27 日(日)14:00 -16:00

場所:Zoom を利用したオンライン開催

テーマ「コロナ禍によって生み出された新たな授業実践の記述」

参加人数:12 名

\* Fecha y hora: Domingo, 27 de diciembre de 2020, de 14:00 a 16:00

\* Reunión On-Line con el sistema Zoom

\* Tema: “Descripción de las nuevas prácticas docentes producidas bajo la pandemia de Covid-19”

\* Participantes: 12 personas

\*\*\*\*\*

11 月開催の TADESKA 例会で、2020 年度の授業実践の記録を残すという提案があった。この提案を「実践のデータベース化」という具体的な形で実現するため、12 月の例会に先立って世話役 2 名が案を作成した。今回の例会は、その案を参加者に伝えるとともに、参加者による内容の検討および来年 2 月の「第 12 回教師の集い」の日程を含む、データベース公開までのおおまかなスケジュールを話し合った。例会の場ではすべてを決定するには至らず、参加者からの率直な意見に基づいて、決定への方向づけを行うものとなった。

以下、当日の世話役からの立案内容と議論の概略を示す。

## 1. データベース作成の目的 (立案)

この 1 年間で私たち教師がやってきたことを、やりっぱなしにならないよう振り返り、**今後の授業活動に活かしやすい形**にして残す。

- どういう状況だったのか (社会情勢、学校、科目、クラス・・・)
- どういう意図があったのか
- 何を行ったのか
- どのように行ったのか
- その結果、どうだったのか (良かった点、問題点)

「振り返り」の意義

振り返りによって・・・

- 授業の在り方を問い直す
- 教育活動の価値を問い直す
- 遠隔授業の価値を問い直す

→来年度以降の教育活動の価値を高める！

## 2. データベース作成の目標（どこまで実現すれば「達成」と言えるか）（立案）

2021年2月開催予定の「第12回関西スペイン語教師の集い」で次のようなワークショップ活動を実施する。

- ① 参加者自身が、今年度行った授業活動を記述する
- ② 記述文にタグ付け\*をし、ひとつのデータベースにまとめる
- ③ 作業を通して分かることをベースに、意見交換を行う

\*データを検索・抽出しやすいようにマーキングする。

上記のデータベースを改良し、2021年3月末までに次の成果物を得る。

授業実践データベース

- ・ 授業実践の総括的記述、記録
- ・ 関心のある人が参照可能なもの

## 3. 話し合った内容

### 1) 「集い」の日程…2021年2月22日（月）

「集い」に出席できない人々を優先して3月の例会の日程を設定し、これら2回のTADESKAの活動を経て、データベース作成をしていくことが決まった。

### 2) データベース内容の検討

- ・ どの媒体で作るか？…ExcelかGoogleスプレッドシート(GSS)

作成時はGSS。公開時はGSSかExcel（さらに検討要）。

それぞれの実践例にタグをつけ、表計算アプリのフィルター機能を用いてデータを絞り込むようにする。

タグは複数の観点から設定し、多角的にデータの絞り込みができるようにする。

- ・ 実践内容をどう記述するか？

世話役が事前に準備した例（実践内容の説明、実践内容のタイトル）を参加者に示した。説明が具体的になると1つのセル内の文字数が増えるので、タイトル一覧のページと内容説明のページを分けた方がよいという提案が出た。

- ・ どのようなタグをつけるか？

（世話役からの案。ただしブレインストーミング的な思いつき）

- ・ 授業形態：遠隔のみ、対面のみ、遠隔と対面の併用
- ・ クラス人数：5人以下、10人以下、20人以下…、50人以上

- 専攻・非専攻
- 1年目、2年目、3年目以上（←初級が1年生とは限らない。「中級」など定義曖昧）
- 科目：文法中心、会話中心、講読、作文、総合、ゼミ…（概論や特殊講義系は？）
- 活動：講義、作文、文法問題、発音、聴解
- 遠隔授業の方法：同時双方向、オンデマンド動画、オンデマンド資料
- 学生に課すノルマ・評価方法：同時双方向の出席が自由・義務、口頭でのやりとり、プレゼン、課題、小テスト、中間・期末テスト、授業参加していることを確認する方法等
- 大学からの課されている条件
- 教員として実現したいこと：体系的な説明、クラスメート同士の協業・協調学習、個別指導、モチベーションの維持・向上、ICTを利用したわかりやすい説明…

上記のうち「科目」「学年」については、様々な大学（高校含む）から実践例が出されたため分類しにくいということを伝えた。例えば、「初級文法」という授業科目であったとしても、実践内容に会話練習や歌が含まれる場合もある。データベースは「実際に行ったこと」をデータの条件とするので、科目名は実践内容と必ずしも一致しない。また、学年（もしくは科目名としての「初級」「中級」など）も、その授業の難易度を必ずしも反映するものではない。

以上のような問題点を伝えた上で、参加者のみなさんから自由に意見を出してもらった。特に、「学年」に代わって授業の難易度をわかりやすく示す方法について、想定される学習時間、CEFRのレベル、専攻・非専攻の別を反映させるなど、いろいろな意見が出た。

話し合いは時間切れとなり、どのようなタグをつけるかについて結論には至らなかったが、参加者がどのような観点に特に興味を持っているかが見えてきた。1月はTADESKAの例会がなく、2月が「集い」なので、世話役が今後も内容を検討し、適宜メンバーに相談して「集い」の内容を決めていくことにした。

（追記）

2月の「集い」の前に、世話役がデータベース作成案をより具体的に作る過程で、TADESKAのメンバー3名と話し合いの機会を持ち、タグのカテゴリー（操作性を考え

て5つまで)を決定した。

(報告者：小川雅美)